

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人千鳥会	代表者	吉村秀樹	法人・事業所の特徴	要介護度や事業所都合での支援内容の制限、調整は行っていない。登録制で通い・泊り・訪問については限度額がない小規模多機能事業所であるからこそ、例え軽介護度の利用者であっても必要な方に必要な支援を行っている。事業所の定員や体制に応じてではあるが、相談に対し、できることを提案しながら利用者家族と一緒に悩み考えていく事業所でありたいと考えている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ	管理者	丹野康之		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	1人	1人	0人	0人	0人	4人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	なし	なし	体制や職員が入れ変わっても、利用者家族の多様な生活歴や価値観に寄り添った支援を続けていく。継続した職員の育成とモチベーションの維持が必要。	事業所の独自性を継続するため、倫理教育の一環として、会議・ミーティング時に法人理念や事業所スローガンに加え、日替わりの交通安全や接遇、虐待防止など日替わりスローガンを作成、毎回唱和し、職員の意識の向上に努める。
B. 事業所のしつらえ・環境	利用者の自由な行動は制限しないが、離設や不審者侵入防止のために、事業所内出入りの把握をきちんと行えるようにする。具体的には事業所内に留まらず、併設施設含め全体で、設置したセンサーを有効に活用していく。また館内の入館証を作成し、面会者等の把握に努める。離設行動未然に防いだり不審者侵入等防犯対策も含めて対応していく。	事業所内の両玄関にセンサーを設置。利用者の自由な行動は妨げないながらも、職員にとって感知と言う意味では把握や意識が高まった。離設に対しても大きなアクシデントにつながらず、未然に防ぐことができた。また今年度よりはじめた入館証については、防犯に対し職員の意識づけが高まり一定のセキュリティー効果があった。また来館者に対しても意識づけや一種の抑止力的にも効果にもつながると考える。	なし	なし

C. 事業所と地域のかかわり	なし	なし	より施設事業所行事はじめ、引き続き地域密着型のサービスとして、地域・自治会との交流を密に行え、より身近に足を運びやすい施設事業所となれるようにする。	引き続き主たる施設行事に地域・自治会に案内を行い、身近に足を運んでもらえるように努める。また事業所の支援が増えても、利用者が馴染みの地域の行事に参加できるなど地域に帰る機会を積極的に支援していく。については地域と施設事業所との交流を図っていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	なし	なし	町内会や社会福祉協議会から様々な地域の案内あり。事業所の支援が多くなっても、地域との関りを途切れさせない。	
E. 運営推進会議を活かした取組み	なし	なし	引き続き運営推進会議は地域とのつながりの部分でもあり、現状報告や事業所の取組み、変化のある利用者情報を支援方法とともに町内会や関係機関からの意見情報も得て、事業所運営に活かしていく。	地域との心配な高齢者への適切な情報共有のため、該当しており事業所で支援している利用者の大きな変化（利用形態等も含め）については、社会福祉協議会に報告相談するなどして連携を深める。また地域連絡会にも参加をできる限り行い、自らの取組みや共有すべき利用者ケース情報を提議して連携に努めていく。個人情報保護を遵守しながらも、地域における支援の中で適切な情報共有が図れるようにする。
F. 事業所の防災・災害対策	地域との共同の訓練については、行政が企画する訓練の際に、合わせて実施参加できるようにする。また運営推進会議を通して、事業所の防災対応についても理解をしてもらうため、防災計画を確認しておいてもらう。地域の方が被災した際には、行政との要介護者の避難受け入れ協定も結んでおり、活用してもらえるようにする。	運営推進会議を通じて、施設の防災計画を報告。	なし	地域との共同の訓練については、行政が企画する訓練の際に、合わせて実施参加できるようにする。